

## 沖縄平和行進に参加して

全日本港湾労働組合日本海地方七尾支部  
青年部長 達 直晃

“沖縄平和行進？何それ”と思ったのが、昨年8月、七尾支部の青年部長になり、沖縄に行く事が決定した時でした。会社の先輩から沖縄平和行進について三日間行進するとか、雨降ったら酷いぞとか、とにかく暑いとか漠然とした事しか聞いていないので、行進だけのために沖縄まで行くなど考えられず、行きたくないと思っていました。

出発前には経験しなければ分からないこともあると自分に言い聞かせ、沖縄行の飛行機に乗りました。沖縄へ行くのも初めて。一人で飛行機に乗るのも初めて。しかも、四泊五日。不安しかありませんでした。運よく窓側の席で、飛行機から見る沖縄はものすごく綺麗で流石、有名なリゾート地だと思いました。空港に着き、沖縄支部の青年部の方達にホテルまで送ってもらい、チェックイン、三単産結団式・平和学習会に参加しました。

翌日は6時30分に起きて朝食。「早く帰りたい。」と同室になった人と喋りながら食べていました。今日から本格的に視察などがあり予定がぎっしりでした。バスに乗り沖縄の景色を見ながら、ひめゆり資料館へ向かいました。自分の中でひめゆり学徒隊のイメージは、戦争で自決した女生徒達の痛ましい話なのかなと思っていましたが、全く違いました。15歳から19歳までの女生徒と引率教師で構成されたのが学徒隊で、看護要員として沖縄陸軍病院に動員され、地下の壕でケガをした兵隊の世話をしていたのです。自分の子供と同じ歳で、こんな悲惨な思いをしていたと思うと涙がこみ上げてきました。遊びたい、勉強したい、恋もしたい、叶わなかったその思いに何とも言えない気持ちになりました。自分はこうやって生きていくだけで幸せなことだと思い知らされました。また、ひめゆり資料館で思ったことは、こんな事まで記録してあるんだという驚きでした。すごく生々しい、人によっては直視することが無理な人もいるんじゃないかと思うくらいの衝撃でした。でもこれが戦争の恐ろしさだと学べた場所でした。

午後からは琉球新報ホールで沖縄平和行進全国結団式があり、沖縄平和行進の為に集まった約2千人もの人を見た時、その壮観さに驚かせられました。その後、ホテルに戻り、懇親会に参加しました。地方毎に1人ずつ自己紹介と抱負などを前に出さなければならず、話には聞いていましたが、100人ぐらいの前で喋るのは苦痛でした。(笑)

三日目は行進当日、天気は晴れ、風もあってちょうど良い天候でした。出発式は、なんとも言えない緊張感でソワソワしました。行進が始まり、各地方の代表が呼ばれ、ジュプレヒコールを開始した僕たちが行進していると、車から手を振ってくれる人、沿道から「ガンバレ」と応援してくれる人、家から手を振ってくれた子供たちのおかげで気持ちが熱くなったのを感じました。日本海地方を代表して新潟の2人がジュプレヒコールをし、他の地方の人に「日本海元気あるし、一番前歩いて。」と言われ、ゴールまで5.15 沖縄平和行進の垂れ幕を敦賀支部の小畑君と一緒に持ち、行進の一番前を歩かせてもらい、今思うとすごい経験をしたけど楽しく自慢できる事だったと思います。そして、全港湾の団結力ってすごえ。こんな力があることは行進に参加しないと分からんし、行進

に参加できて良かったなと素直に思いました。ゴールの平和行進記念公園に着き、約 15 km 歩ききり清々しい気持ちになったことを忘れません。ホテルに帰り、体がぐったりの中、沖縄の地本へ移動し、BBQ 交流会、三単座。みんなで飲んだオリオンビールは格別でした。楽し過ぎて沖縄が好きになり、一致団結した姿ってこういう物なんだと感じました。今年は行進が 1 日だけのスケジュールだったのですが、来年は通常通り 3 日間行進するとの事です。参加できるのであれば、来年も参加したいなと思っています。

今回、この 4 泊 5 日間の沖縄で学んだ事、見た事、感じた事を後輩、次世代に伝える事が今の自分に出来る事だと思っています。日本の戦争の歴史で象徴的なものは、広島、長崎に落とされた原子爆弾なのかもしれませんが、地上戦が行われた沖縄もたいへん悲惨だったという事。この事実を風化させないことが大切だと思います。沖縄の言葉で「ぬちどう宝」という言葉。命こそ宝という意味の深さを一人一人が考えないといけないなと思いました。

そして、全港湾という組織の団結力の素晴らしさを実感できたことに感謝したいと思います。